

コミュニティ・スクールだより

No7

地域学校協働活動の様子

地域の住民や団体の皆様の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えていただいております。どの取組も、地域との“つながり・きずな”が実感できるものです。その一部を紹介します。

楽しい“あそび”がいっぱいだよ（むかしあそび）

地域の方々のご協力とご支援を得て、1年生が生活科「むかしあそびをしよう」の学習をしました。おじいちゃん、おばあちゃんが子供だった頃よく遊んだ“あそび”を9種（竹とんぼ・竹うま・竹ぼっくり・お手玉・コマ回し・めんこ・おはじき・あやとり・けん玉）取り上げ、遊び方や上手に遊べるようになるコツを教えてもらいました。

「むかしあそび」で使う用具の中には扱い方が簡単そうに見えても、いざ自分が手にするとなかなかうまく扱えないものがあります。特に、竹うま、けん玉、コマ回しなどのあそびは、多くの子供たちが用具の扱いに苦戦していました。上手に使いこなせるようになると「できた できた」と大喜びでした。

地域の方々との触れ合いの中で、地域の温かさを感じ取れる時間となりました。授業後、感謝の気持ちを添えてお手紙を書きました。本学習の趣旨をご理解いただきご来校いただきました皆様、誠にありがとうございました。



入しやすいところ 見えにくいところ（地域安全マップづくり）

多くの皆様のご支援とご指導を受けて、4年生が「地域安全マップづくり」を行いました。「地域安全マップ」とは、犯罪が起こりやすい場所や何かあったら助けを求められる（逃げ込める）場所を示した校区内地図のことをいいます。この学習のねらいは、実際に子供たちが校外に出て調査し、気になる場所と気づきを地図上に落とし込んでいく活動の中で、自ら防犯を意識して「危険な場所」を判断できる力を身に付けることにあります。危険な場所とは、誰もが「入やすく」誰からも「見えにくい」場所です。

事前学習では、“場所”に着目して危険な場所や安全な場所を探して回ることを教わり、その後リーダーを先頭にして担当区域へと出かけました。フィールドワーク終了後には、「低木があって周囲から見えにくい」「公園のトイレが暗い」「街灯や防犯カメラが設置されており安心感がある」などなどの気づきを付箋に書き、地図上に貼り付けました。活動の最後に、危険な場所や安全な場所についての振り返りを行い、参加者全員と情報を共有しました。

本学習には、東広島防犯連合会事務局、広島県県民生活課、東広島警察生活安全課、東広島市役所危機管理課、比治山大学、地域ボランティア、4年生保護者 と多くの皆様に係っていただきました。皆様、誠にありがとうございました。

